

冠血流予備比(FFR)にて冠動脈インターベンションを見送った 症例の長期予後: 日本多施設レジストリー

冠動脈(心臓を養う動脈)の狭窄が治療を要するかどうかを判断する際、冠動脈内圧の測定(冠血流予備比 FFR: fractional flow reserve)は非常に有用な手段です。海外での報告では、FFRによりカテーテル治療を見送った病変の5年間の心臓死・心筋梗塞発生率は3.6%と極めて良好な経過を示すことが報告されています。これを受けて本邦でも FFR を使用することが多くなっていますが、FFR で治療を見送った患者様(FFR>0.80)の長期予後は明らかではありません。

この研究では、FFR を用いてカテーテル治療を見送った患者様について、5年後までの標的血管不全と脳心血管イベントの発生頻度との関連を調べ、FFR の有用性を評価します。

本試験は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会(臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会)においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。